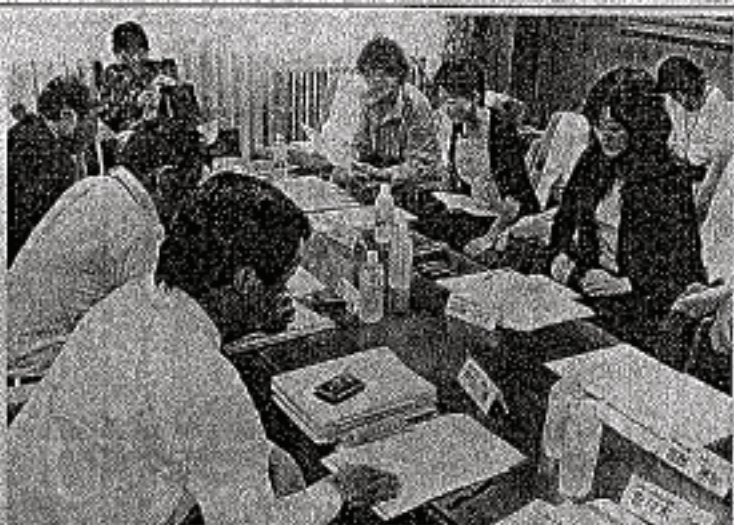


釧路市の関係者から意見を聞く山越研究員(右)



日本医療政策機構

市の性教育に注目

研究員が訪れ意見交換

全国から「先駆的な取り組み事例」として注目を集める釧路市の性教育事業を学ぼうと、特定非営利活動法人(NPO法人)日本医療政策機構(東京)の研究員が七日、市内を訪れ、担当職員や保健師、学校関係者、市議らと意見を交わした。(大矢太作)

釧路市健康推進課は二〇〇〇年度から市内の学生や親、性教育の専門「家」、医療関係者に協力を呼びかけ、性感染症や中絶の

実践、具体的な避妊方法などについて研究している同機構が注目。これまでに釧路市の担当職員を東京に招き、講演会を開くなどしていった。

実施、具体的な避妊方法などについて研究している同機構が注目。これまでに釧路市の担当職員を東京に招き、講演会を開くなどしていった。

今回は「実際に現場の性に関する知識を与える

のではなく、心を育てる「人間教育」と同時に進めたいかなるかはならぬ」という意見が出た。

また、山越研究員の「釧路の取り組みが他の地域で成り立つか」の質問には、「行政と地域が共通認識を持って連携すれば、必ず成功する」「性教育を前面に出すのではなく、『命の教育』というテーマで入るなど、提案の工夫も必要」などの発言があった。

同機構は今後、釧路市の取り組みを報告書に実例として紹介するほか、性教育に関するシンポジウムの中で報告する予定だ。